

ここで紹介しているのは、晴岡が個人的に活字起こしたテキストです。原写なども含まれるとおもいますが、その点をご了承していただき、あくまで参考資料としてご覧いただければ幸いです。研究などに用いる場合は、東北大学史料館蔵の原本に直接あたってください。転載をする場合は、史料館の許可が必要です。

(<http://mmmmr.web.fc2.com/kenzo/kenzo-index.html>)

阿波範士言行録稿本

分類二六 「二六五〜二八〇」

「射道口演」

(昭和十一年八月盛岡ニオケルモノナリ。阿波家蔵・唐沢氏集録ヨリ)

目下我国は肚の出来た肚の据った人を要求して居る。肚を造る為の基礎工事を精神鍛錬と云ふのである。

精神を鍛錬して修養して居ることはいざと云ふ時につかまり処を造る為の者である。

一箭に自己の暗明をつぶさに考察して学ぶ事を欲す。

腹を造ることに大看板を建よ。

人善言に隠れるな。

国家的使命を感じて実行道に生きよ。

旧来の陋習を破り一射絶命の大義に基くべし。

吾々人生は正しきを奉じて正しきに生き一箭経国の精神を振起すべし。

人間は善を信ずることに至つて臆病な者である。如何に優秀なる頭脳を有し其の深き智識を有しても善を信ずることに戦して不成は勇なき所以である。

道とは大乘悟道である。悟道とは実行精神である。

故に良く理つたと云つて行はない人は理からぬ人である所以小乗的な人である。

一射献身の努力即粉骨碎身の人は大乘胆練の人で心力の鍛錬を必要とするからである。

技術的工作の人は射境不鍛練か正法を学ばぬ者なり。

丹を練ることは第一義にして人間道最高の修練だからである。

我々人生は正しきを愛せず正法に即せずして而かも世を過す人達も決して絶無とは申されないが道を有する人、万人に一人でも濟世の人格者なら夫れこそ道の蒼生ともなり救済ともなるつまり有道の人は崇教的自然の働きをなす者で是れ我国神惟の大精神である。

靈「*」心とは魂なり丹田とは魂の座なり、魂座に永住せよ。

技巧は偽魔なり、神聖なる精魂の血を吸ふの魔物なり。誠心を以

て魔窟に入るべからず。

国家有用の爲めに人間を造れ。

青年は意気で進め。

自己の力を知れ、至誠奉公なら誰れにも負けぬ。

弓とは自己の心を引くものなり。

■なき男は匹夫なり。

内に心を養ひ外に之を現すのである。

修養は学なり、直なり。

反省は大勇となる。

誠を以て進め人は誠に弱い是怠惰者である。

日常の仕事の上に其の努力を見出せ。

羨む誇るな。

身命を忘れて仕事に傾倒せよ。

能率向上と人の和、職務に尽す人は完全なる人格者である。一心

に動けば常に向上。

純心な正情修養の人は軽挙妄動なし、着実なり。

射は、聖と凡との二途あるのみ。

人格の全活動を以て射心三昧真発鍛錬を錬り射義の真義を会得す

べし。

武道家即ち弓道修行者は常に人格達成に精進し必ず偏通を歩まさ

ることを■とすべし。

一時一時の反省より出る日本固有の射道精神が射に自ら■あるが

人間開■の法則なり。

弓道興国の大業に成効せよ。

殉教的覚悟を有する我々が其の指導精神が自ら率先し実践に移し

大道の更生を迎へる時機の到来と射の認識を新にせねばならぬ。

正■に即す以て直心を顕現せよ。

発は卑賤にして無発の発は覚格の射なり。

射は言外の教育なり。

形有て道無きは必ず滅す。

良く聞き良く見通して良く練り而して行へは必ず間違いない。

精神に力を持って意気血気盛になれ。

何事も成功の記録は不断の努力と勉強とを歩み続ける人のみ自己

は自己に働き懸ける、一步も退くな。

粉骨碎身善行鍛錬日常の鍛錬、イサと云ふ時出来る徳性の涵養。

一射一射に自己を大■に打着けよ。

一切の行動は忠孝に帰順する。

道は体得すへき者である。

射は人間全体を浄化する者である。

人格の表現とは自己全部の発露したる美しきもの■■の上に表

現せられたるを云ふ。

道の欠けた射は暴力の器器となる。

弓は的中に眩惑されて性行の欠陥を寛假しようとする故に此■は進歩するに反比例して武道は頽廢する、是一大思想に關するものであつて猛省すべきものである。

射教ハ性怠惰なる者、忍耐力の乏しき者、注意力の散漫なる者、薄情で残忍性に富んで居る者、智的方面に欠けて居る者、此の欠陥を補ひ指導善化することを得。

弓道精神ハ眞実絶對性を普及すること。

射は弓を手にして実相的に身心を錬り弓を通して眞実性を見詰め進退の動作礼にかなつて莊嚴沈着ならしめ静動の大妙に生き明白なる思想を開導して大衆を救済すること射心の莊嚴なる慈愛心なり、日本魂を以てする即ち実行道の大權威なのである。

学校教員に弁別に何物か持つて居なければ教授法を見て居つてもさみしい、学生に教科書の監督か。

弓道指導者は社界人に何物かを与へてゐるか、無ければ偽せ者だ。

畏くも御即位式御勅語を承ると「皇考文ヲ以テ経トシ武ヲ以テ緯トシ以テ曠世ノ大業ヲ建ツ」と、謹て案するに武は実に吾国体の精華にして今日の隆昌と光輝ある二千六百年の国史ノ成績は実に武徳の発現にして武道の眼目は忠孝の大業を本とし至剛の大精神に外な

らざる者であります。国民精神作興の御詔勅に「国家興隆ノ本八国民精神ノ剛健ニアリ」と仰せられて居ます。謹みて案するに藤田東湖の「世の汚隆ある時に正気光を放つ」是れ人心に緊張を欠き外来思想に浸蝕せられて動もすれば吾が国体思想に反する徒も出し思想の統一を欠くなきにあらざるも常に至剛精神を養ふこと一瞬も疎にすることを赦さざるべからずと信ずる次第であります。而して武道の本は惟神道より淵源す故に神武一体にして武は天祖の御心なり。されば之れを奨励し之を盛んならしむる事は国家興隆の本をなし且つ天業の恢弘と皇道精神の発揚とを期する所以であります。惟フに惟神至極の意はより外に無いとの意を恐察し奉る次第であります。故に此の惟神道即ち武道精神を錬ると云ふことは皇祖皇宗の遺訓であるから朕も守ると仰せられた次第であります。此の尊嚴極りなき道を修めよと御奨励遊す御意と拝察し奉るのであります。故に武道を行「志」する処を道場と呼び神意に叶ない奉る次第であります。我等此の一箭に全生命を傾倒し粉骨碎身の努力するは人間最高の務めであつて是即ち忠であります。忠なれば即ち孝であります。忠孝極りの射行に依つて最高道徳を完成せんとするものであります。それで吾が弓道指導者は大義名分を明らかにする上に一矢に国体明徴の正義を実行に移すべく畢生の力を注ぎ決して箇人の利益に道を■るべからずと相誠めて居る次第であります。昔柳生宗嚴が子宗

矩に皆伝剣法兵法を授くる時■謂技や力の剣術でなく天下を治むる兵法即ち剣法であつた、其の人格を養成する剣道を修業させ大道仁聖賢の道を教へ込んだのである。故に將軍を指導し得る人格を養成させたのであつて治國平天下の大事績の資格者たることが十分であつた。他の劍客は即ち箇人劍術であつて道の剣道ではなかつた。即ち劍道と劍術の差は茲にあつた。射と術との差は又茲にあるのである。的中でと道に住する射行との差、天地の差である。故に箇人的に試合せば宗矩以上の者も無きにしもあらされ其の人格と識見に偉大な差があつてつまり人格的立会に於て天と地との差があつた。即ち道力心力に依つて自己を包む威力自ら備つて胆力も又氣高かつたことゝ思ふのである。それで相互射行の射は何時も静な緊張な必要である。其落付きは丹田に治むる緊張さは精神確立の基であつて丹田より生ずる誠の射業は必ず神明に通ず邪念の無い正しい射は其人を剛直にして勇敢にし優美ならしむるもので徳性涵養の上から見ても其の品性を保ち社界の淫蕩放縱なる風潮を矯正し夫れに面するに礼を以てするのである。礼の敬虔精神のしまりをつけるのでありましてつまり礼に即して人間を造ると云ふので是れ即ち射道の使命であるのであります。

射は忠孝一本の姿なり。

射の姿とは自己向上か一射一射に新しく開叢「*」されて行く人

格的象徴を示すものであつて自己の靈識を一射一射に純化せしめつゝ其の生命力の大自然に合致する靈識の姿であります。夫れに一射絶命粉骨碎身の至誠の射に依つてのみ道を得らるゝのであります。何事も同じことであるが道を求めざる遊墮な人には開叢「*」向上の機能たるべき意識の発達が絶無であるから是れ凡夫の教である。即ち貴格と賤格との差は茲に自ら表現さるゝのであります。つまり弓を通してなさんとする修養開拓であります。至誠を捧げた人のみに依つて完成されるのであります。つまり畢竟するに根氣の圍繞てあつて精神の確立道を建設するのである。御互は射の上に絶対此の力を養成して人格化して行くのである。寄樂の射は無駄にならねば國家の爲めにも弊害となるのである。国民道徳上尤も弊害となるのであります。憂國忠誠の射業は正しき強き射魂一教に常住し後進に道を以て此の大魂を伝へるのである是れ日本精神であります。最高道徳であります。それで弓は中てさへすれば良いと云ふ見地なら道徳を実行せね箇人主義は尤も卑賤な了簡である。即ち道知らぬ不道徳者である。御互いか生命の進展を神聖な人生に理想を懐いて進むのであるが射は神の如く強い偉大なる精神力を涵養さるゝもので雄胆に細密一致の精神を養成さるゝものであります。誠を以て大義の心を完成するからであります。大勇の心とは彼我一枚である。生命を忘れて大義道に邁進する大反省道であつて真面目なる洗鍊道で

ある。即ち聖学聖教であるのであります。内に其の心を養ひ外に是を表しつゝ建設するのであつて是れを一射に表現するのである。自己を正直に見詰て行く反省は己を射るのであります。一射一射に己を射つゝ己を高めて行くも道心の働きであるのであります。故に道

射絶命の姿こそ最高の修業で独特の修業発揮である、向上即ち思想行動を興するのでありまして是れを中心と云ふのであります。射を求むる者必ず人格者たらざることなし、射は忠孝一本の姿なり。

に住する人は如何に峻厳の教へに処しても如何なる苦痛にも耐へ得る忍耐力益々克己の心を發揮するのであります。それで弓取る人は如何に自己を処すべきかはれ日本武士道弓矢の道の哲学である、自分も高めて総てを忘れて自己を捧けて行く神聖な■大義道か日本精神であつて弓道精神と云ふのである、其の高めてくれる弓矢の道に濟誠するのである、大義真忠は一射絶命の一射断悪である、人生の働きに放て日々新たに刻々新たに新生命を開拓さるゝ真理を探「*」りつゝある。人生旅行も一層真理に近づきつゝ自己の存在を清く正しく見詰つゝ至誠の精に生き神人合一に始終するのであります。それで我か献身の一箭は国体■性の大威儀を丹魂から表徴するのであります。人間哲学、道德学、度脱学、弓道射学、礼学、人格修養学を一丸とた「*」一射学である、それで我々が射礼に常住して人生生活する上に於て日々努力を重ねつゝ苦心を重ねる上に幾多の困難に打附かりつゝ修業して行くので又悩もある。夫れを体験する毎に鍛錬さるゝのである、此の悩み苦しきは人格建造の上に尤も有効感謝せねばならぬ試練■である、つまり我等此の辛酸を嘗めつゝ一